

# 看 護

## 改 訂 の 要 点

近年、少子高齢化がさらに進行し、入院期間の短縮、在宅医療の拡大などの変化が生じている中、看護職には療養の多様化に応じ、多職種と連携して創造的に看護を行う専門性の高い実践能力が求められている。

教科「看護」の改訂に当たっては、この看護職に求められる専門性の高い実践能力を整理し、以下の観点から改善が図られた。

- 療養の場の多様化に伴うリスクマネジメント及び多職種連携を含めた専門性の高い看護実践能力の育成への対応
- 看護に求められる倫理的課題の多様化への対応
- 地域や社会のグローバル化への対応

### 1 教科の目標

#### 従 前

看護に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、看護の本質と社会的な意義を理解させるとともに、国民の健康の保持増進に寄与する能力と態度を育てる。

#### 改 訂

看護の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、看護を通じ、地域や社会の保健・医療・福祉を支え、人々の健康の保持増進に寄与する職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 看護に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、人々の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

### 2 科目の編成

改 訂 (13科目)	従 前 (13科目)	備 考
基礎看護	基礎看護	名称変更 名称変更 名称変更
人体の構造と機能	人体と看護	
疾病の成り立ちと回復の促進	疾病と看護	
健康支援と社会保障制度	生活と看護	
成人看護	成人看護	
老年看護	老年看護	
小児看護	精神看護	
母性看護	在宅看護	
精神看護	母性看護	
在宅看護	小児看護	
看護の統合と実践	看護の統合と実践	名称変更
看護臨地実習	看護臨地実習	
看護情報	看護情報活用	

### 3 各科目の内容等

#### 「基礎看護」

この科目は、看護の本質の理解を基に、看護の実践の基盤となる資質・能力を育成するものであり、看護に関する学科では、原則として全ての生徒が履修する科目である。

(改善点)

学習内容を整理し、指導項目の③日常生活の援助と④診療に伴う援助の前に、②看護の共通技術を位置付けるなどの改善が図られた。

(内容)

- ①看護の本質
- ②看護の共通技術
- ③日常生活の援助
- ④診療に伴う援助

#### 「人体の構造と機能」

この科目は、人体の構造と機能の基礎的な内容について理解し、看護の実践に適切に活用する資質・能力を育成するものである。そのため、「看護基礎」と関連付けて学習することが重要であるとともに、「疾病の成り立ちと回復の促進」、「成人看護」、「老年看護」、「小児看護」、「母性看護」、「精神看護」、「在宅看護」、「看護の統合と実践」、「看護臨地実習」を学習する基盤となるものでもある。

(改善点)

看護科に属する他の科目との関連を踏まえて学習内容を整理するとともに、学習内容に合わせて科目の名称を変更するなどの改善が図られた。

(内容)

- ①解剖生理
- ②栄養

#### 「疾病の成り立ちと回復の促進」

この科目は、疾病の成り立ちと回復の促進について理解し、看護の実践に適切に活用する資質・能力を育成するものであり、「人体の構造と機能」の学習を基盤とし、「基礎看護」、「成人看護」、「老年看護」、「小児看護」、「母性看護」、「精神看護」、「在宅看護」、「看護の統合と実践」及び「看護臨地実習」と関連付けて学習することが重要である。

(改善点)

看護科に属する他の科目との関連を踏まえて学習内容を整理するとともに、学習内容に合わせて科目の名称を変更するなどの改善が図られた。

(内容)

- ①疾病の原因と生体の回復
- ②基本的な病因
- ③疾病の診断過程と治療
- ④各機能の障害
- ⑤疾病と薬物

#### 「健康支援と社会保障制度」

この科目は、健康支援と社会保障制度について理解し、看護の実践に適切に活用する資質・能力を育成するものであり、「基礎看護」、「成人看護」、「老年看護」、「小児看護」、「母性看護」、「精神看護」、「在宅看護」、「看護の統合と実践」及び「看護臨地実習」と関連付けて学習することが重要である。

(改善点)

看護科に属する他の科目との関連を踏まえて学習内容を整理するとともに、学習内容に合わせて科目の名称を変更するなどの改善が図られた。

(内容)

- ①公衆衛生
- ②社会保障制度

### 「成人看護」

この科目は、「基礎看護」及び「人体の構造と機能」、「疾病の成り立ちと回復の促進」、「健康支援と社会保障制度」の学習を基礎として、成人看護の実践に必要な資質・能力を育成するものである。この科目における学習は「老年看護」、「小児看護」、「母性看護」、「精神看護」、「在宅看護」に関連付けていくことが重要であり、「看護臨地実習」の学習の基盤となるものでもある。

(改善点)

「看護臨地実習」における学習の充実を図るために学習内容を整理し、健康障害に伴う急性期、回復期、慢性期、終末期などの各期に応じた看護及びリハビリテーション看護、がん看護を位置付けるなどの改善を図った。

(内容)

- ①成人の健康と看護
- ②健康レベルや障害の状況に応じた看護
- ③機能障害のある患者の看護

### 「老年看護」

この科目は、「基礎看護」及び「人体の構造と機能」、「疾病の成り立ちと回復の促進」、「健康支援と社会保障制度」の学習を基礎として、「成人看護」、「小児看護」、「母性看護」、「精神看護」、「在宅看護」と関連付けて学習することによって、老年看護の実践に必要な資質・能力を育成するものであり、「看護臨地実習」における学習の基盤となるものである。

(改善点)

社会の変化への対応として学習内容を整理し、老年看護の倫理的課題を位置付けるなどの改善が図られた。

(内容)

- ①高齢者の特徴と看護
- ②高齢者の生活を支える看護
- ③診療を受ける高齢者の看護
- ④高齢者に多い健康障害と看護

### 「小児看護」

この科目は、「基礎看護」及び「人体の構造と機能」、「疾病の成り立ちと回復の促進」、「健康支援と社会保障制度」の学習を基礎として、「成人看護」、「老年看護」、「母性看護」、「精神看護」、「在宅看護」と関連付けて学習することによって、小児看護の実践に必要な資質・能力を育成するものであり、「看護臨地実習」における学習の基盤となるものである。

(改善点)

社会の変化への対応として学習内容を整理し、小児看護の倫理的課題を位置付けるなどの改善が図られた。

(内容)

- ①小児の健康と看護
- ②小児各期の健康課題と看護
- ③診療を受ける小児の看護

### 「母性看護」

この科目は、「基礎看護」及び「人体の構造と機能」、「疾病の成り立ちと回復の促進」、「健康支援と社会保障制度」の学習を基礎として、「成人看護」、「老年看護」、「小児看護」

「母性看護」、「精神看護」、「在宅看護」と関連付けて学習することによって、母性看護の実践に必要な資質・能力を育成するものであり、「看護臨地実習」における学習の基盤となるものである。

(改善点)

社会の変化への対応として学習内容を整理し、母性看護の倫理的課題を位置付けるなどの改善が図られた。

(内容)

- ①母性の健康と看護
- ②女性のライフサイクル各期の健康課題と看護
- ③周産期の看護

#### 「精神看護」

この科目は、「基礎看護」及び「人体の構造と機能」、「疾病の成り立ちと回復の促進」、「健康支援と社会保障制度」の学習を基礎として、「成人看護」、「老年看護」、「小児看護」、「母性看護」、「在宅看護」と関連付けて学習することによって、精神看護の実践に必要な資質・能力を育成するものであり、「看護臨地実習」における学習の基盤となるものである。

(改善点)

社会の変化への対応として学習内容を整理し、精神保健を位置付けるなどの改善が図られた。

(内容)

- ①精神の健康と看護
- ②精神保健医療福祉の変遷
- ③精神障害の状況に応じた看護
- ④主な精神障害と看護

#### 「在宅看護」

この科目は、「基礎看護」及び「人体の構造と機能」、「疾病の成り立ちと回復の促進」、「健康支援と社会保障制度」の学習を基礎として、「成人看護」、「老年看護」、「小児看護」、「母性看護」、「精神看護」と関連付けて学習することによって、在宅看護の実践に必要な資質・能力を育成するものであり、「看護臨地実習」における学習の基盤となるものである。

(改善点)

社会の変化への対応として学習内容を整理し、在宅看護の倫理的課題を位置付けるなどの改善が図られた。

(内容)

- ①在宅看護の特徴
- ②在宅療養を支える制度
- ③在宅療養者と家族等への支援

#### 「看護の統合と実践」

この科目は、「基礎看護」及び「人体の構造と機能」、「疾病の成り立ちと回復の促進」、「健康支援と社会保障制度」の学習を基礎として、「成人看護」、「老年看護」、「小児看護」、「母性看護」、「精神看護」、「在宅看護」と関連付けて学習し、看護科に属する各科目で修得した資質・能力を臨地で活用できるよう統合するものであり、「看護臨地実習」における学習の基盤となるものである。

(改善点)

社会の変化への対応として学習内容を整理し、看護におけるマネジメント、国際看護を位置付けるなどの改善が図られた。

(内容)

- ①看護におけるマネジメント
- ②災害看護
- ③国際看護

#### 「看護臨地実習」

この科目は、看護科に属する各科目で育成した資質・能力を臨地で活用することにより、基本的な看護実践力を身に付けるとともに、看護科に属する全ての科目を関連付け、統合化を図るものである。

(改善点)

社会の変化への対応として学習内容を整理し、保健医療福祉施設での実習を位置付けるなどの改善が図られた。

(内容)

- ①基礎看護臨地実習
- ②領域別看護臨地実習
- ③統合実践看護臨地実習

#### 「看護情報」

この科目は、看護実践に必要な情報と情報技術を理解して適切に活用し、看護における課題の解決を効果的に行う資質・能力を育成するものであり、看護科に属する各科目と関連付けて学習することが重要である。

(改善点)

社会の変化への対応として学習内容を整理し、看護における情報の活用と管理、看護における課題解決を位置付けるとともに、科目の名称を変更するなどの改善が図られた。

(内容)

- ①情報社会の倫理と責任
- ②看護における情報の活用と管理
- ③看護における課題解決

## 4 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い

### (1) 指導計画の作成に当たっての配慮事項

単元などの内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、看護の見方・考え方を働かせ、健康に関する事象を、当事者の考えや状況、疾患や障害とその治療などが生活に与える影響に着目して捉え、当事者による自己管理を目指して、適切にかつ効果的な看護と関連付ける実践的・体験的な学習活動の充実を図ることが大切である。

看護に関する各学科においては、「基礎看護」及び「看護臨地実習」を原則としてすべての生徒に履修させることとしている。

看護に関する各学科においては、原則として看護科に属する科目に配当する総授業時数の10分の5以上を実験・実習に配当することとしている。

地域や保健医療福祉機関、産業界等との連携・交流を通じた実践的な学習活動や就業体験活動を積極的に取り入れるとともに、社会人講師を積極的に活用するなどの工夫に努めることが大切である。

障害のある生徒などについては、学習活動を行う際に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うことが大切である。

### (2) 内容の取扱いに当たっての配慮事項

看護に関する課題について、疾患、治療、生活状況などを把握するとともに当事者の思いを傾聴するなど、多面的な情報を集めて分析し、解決策の考察や協議を経て当事者への支援を行い、その結果を踏まえた振り返りを重視する学習活動を行うこと。また、これらの活動を通じ

て、言語活動の充実を図ることが重要である。

コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用を図り、学習の効果を高めるよう工夫することが大切である。

### (3) 実験・実習の実施に当たっての配慮事項

実験・実習を行うに当たっては、関連する法規等に従い、施設・設備や薬品等の安全管理に配慮し、学習環境を整えるとともに、事故防止などの指導を徹底し、安全と衛生に十分留意する必要がある。

## 5 その他の留意事項

看護師資格取得を目指す高等学校の教育課程編成にあたっては、「学習指導要領」及び「保健師助産師看護師学校養成所指定規則（以下、指定規則とする）」の両立が必須である。

5年一貫課程は専門科目89単位以上（臨地実習26単位以上）、准看護師養成課程は専門科目51単位以上（臨地実習21単位以上）の専門領域の単位数が必須であり、看護師養成校としての専門教育と高等学校としての教育を、「学習指導要領」・「指定規則」の双方の理念に合致した教育課程を工夫して編成し、実施する必要がある。